

農村計画部門 一研究懇談会

## 海際から描く、くらしの教養 ー生活・生業・技術・文化

[資料あり]

9月12日(火) 13:30~17:00 オンライン 第F室

司会 青木佳子(千葉商科大学)

副司会 吉村真衣(三重大学)

記録 磯村和樹(東北学院大学)

1.主旨説明 友淵貴之(宮城大学)

2.主題解説

①生活ー答志島

正林泰誠(元答志島地域おこし協力隊)

②生業ー雑賀崎

池田佳祐(雑賀崎漁師・漁家民泊「新七屋」)

③技術ー冷水浦

伊藤智寿(大工・Re SHIMIZU-URA PROJECT)

④文化ー尾鷲

江端木環(元尾鷲地域おこし協力隊)

3.討論 進行:本江正茂(東北大学)

4.まとめ 下田元毅(大手前大学)

神吉紀世子(京都大学)

島国である我が国は、海によってもたらされる多様な資源を享受しており、漁村や港町、工業地帯など享受する資源の特徴に応じた個性豊かな地域を形成している。同時に津波や高潮、潮風といった海の近くであるがゆえに生じる脅威に対する知恵や技が各地で育まれており、自然環境の不確実性に応答した豊かなくらしを各地に見ることができる。

一方で、東日本大震災での津波被害以降、海際の土地利用に大きな変化が見られ、例えば高台への住居移転や巨大堤防の建設が挙げられる。その結果、低平地の多くは建築制限によって未利用地となっている場所がまだまだ多く残り、海と陸地は巨大堤防によって阻まれた地域が多く存在する。このような状況は東北沿岸部のみならず、今後巨大津波被害が予想される東南海エリアにおいても観察されるようになっている。

本研究懇談会では、南海トラフ地震などが予想される紀伊半島の海際の「生活・生業・技術・文化」に焦点を当てることにした。かつて紀伊半島は、樽廻船やみかん船などによって

西岸と東岸で多様な繋がりをもって海の輪郭が描かれていた。主題解説では、紀伊半島各地の海際で小さくらしを丁寧に積み重ねてきた登壇者をお迎えし、紀伊半島の海際で育まれてきた／育まれようとしているくらしの今日的な実態を捉える。討論では、主題解説におけるくらしの実態を起点とし、紀伊半島のこれからのくらし、それに伴う土地利用の可能性を議論する。多様な変化が見られるいま、改めて『海際』に焦点を当てることで、新たなくらしの教養を海際から導き出し、島国としての未来を想像し、これからの海際の輪郭を描く手掛かりを見いだすことを期待したい。